

2022年7月30日～31日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。なお、今回の調査結果を以前の結果と比較する際は、今回の調査結果を「2022年8月」の結果としています。  
(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

## 【水温の鉛直分布】

湾内の表層（深度5m層）の水温は20～23℃台で、概ね昨年と同様か1～2℃高くなっていました。一方で湾内の深度10～40mの水温は7～20℃台で、一部を除き昨年よりも1～7℃ほど低くなっていました。また、湾外の深度5mの水温は湾内と比べると低くなっていますが、19～22℃台で昨年と概ね同様でした。

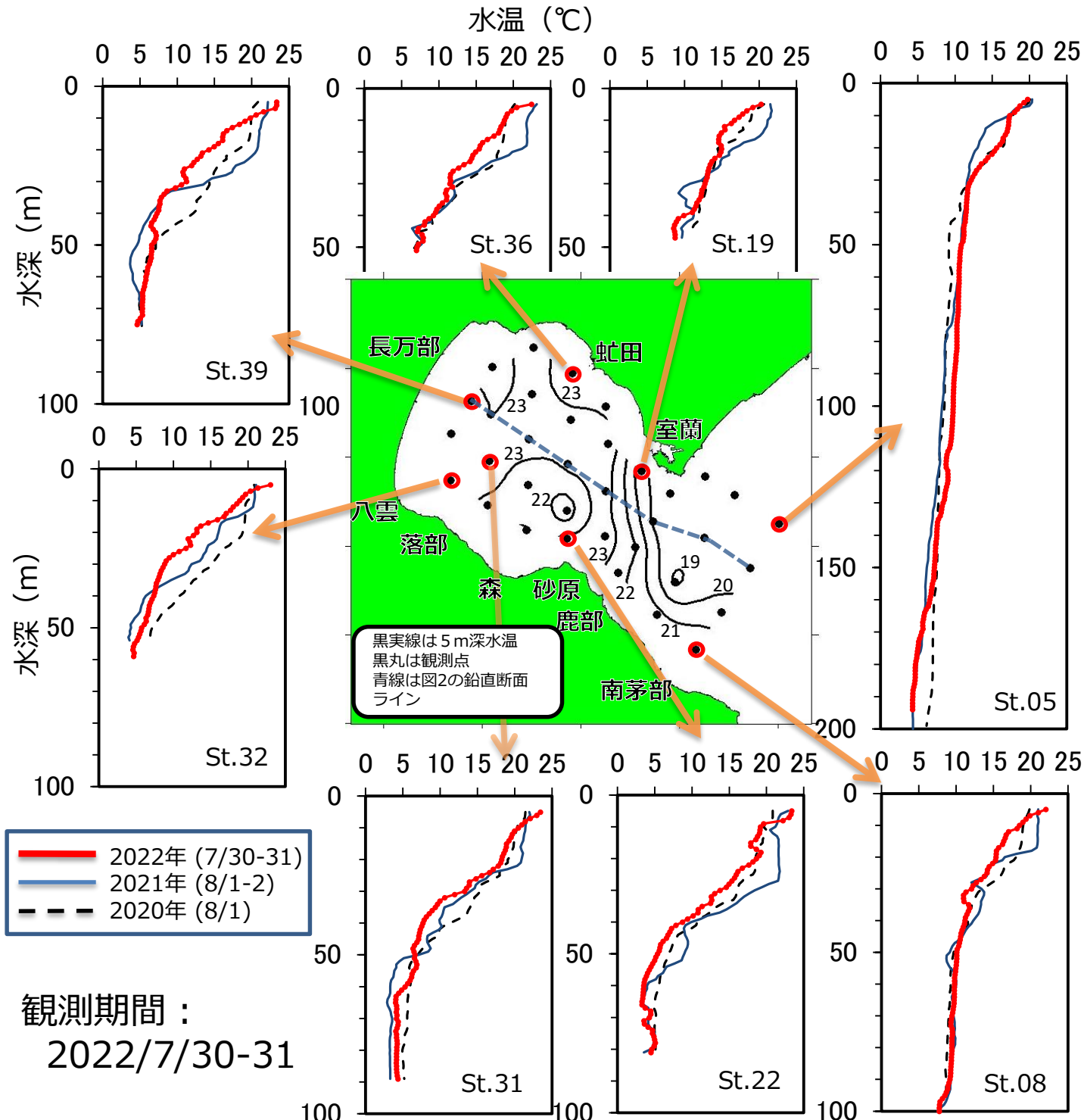


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

## 【水温、塩分の鉛直断面分布…7月と8月の比較】

8月の湾内の深度10m以浅の水温は20℃以上で、7月よりも1～5℃高くなっていました。また、深度50m以深は概ね7℃以下で8月よりも1～2℃高くなっていました。

津軽暖流水（水温6℃以上、塩分33.6以上）は7月よりも噴火湾内に近づき、深度40～60mでは湾内へ流入し始めています。

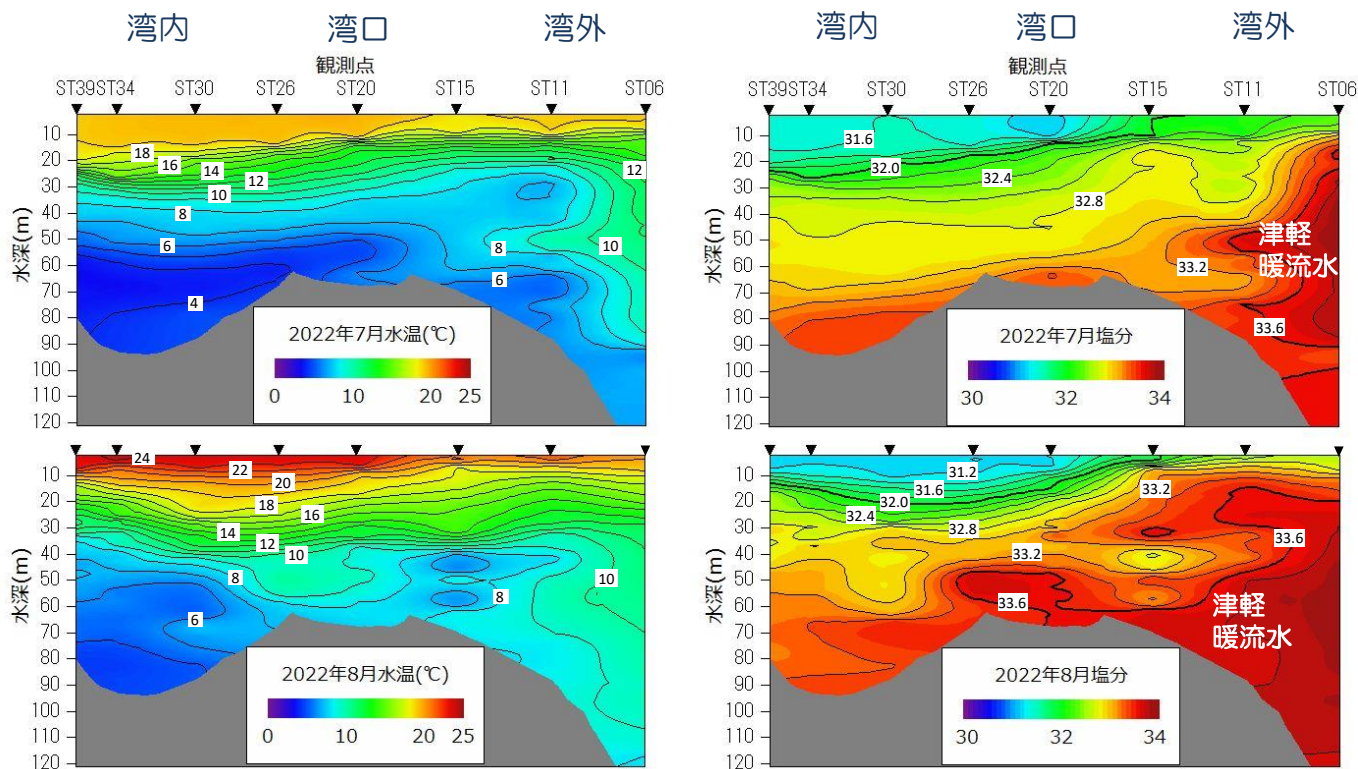


図2 水温・塩分の鉛直断面図（上段：7月，下段：8月）  
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 上部の▼は観測点

## 【噴火湾の海底直上における溶存酸素量の月変化】

一般的に海底付近では有機物が分解されるときに酸素が消費されます。噴火湾の底層でも同様のことが起こりますが、噴火湾の海底地形はお椀状になっているため、海水の交換が起こりにくい深層部では特に春から夏にかけて溶存酸素量が減少し続けます。今年の噴火湾の深みに位置するSt31の海底直上の溶存酸素量は昨年より低下が早く、5月に3.2ml/Lまで低下していました。7月や8月は昨年と比べると値は高いですが、8月には2.4ml/Lとなり、貧酸素水（3ml/L以下）となっていました。今後酸素濃度の高い津軽暖流水が底層に流入するまで、貧酸素水は継続すると考えられます。

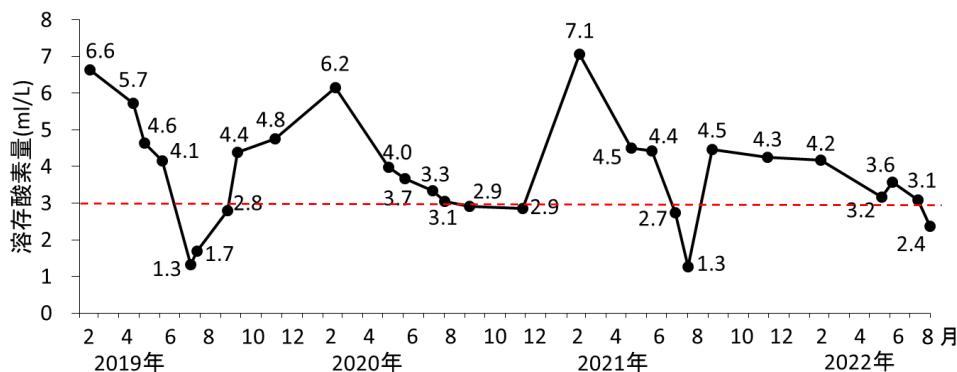


図3 海底直上（深度約95m）における溶存酸素量の月変化（St31）  
St31の位置は右図を参照  
赤破線は、貧酸素水の基準値の3ml/Lを示す